(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3208367号
(U3208367)
(45)発行日　平成29年1月5日(2017.1.5)　(24)登録日　平成28年12月14日(2016.12.14)

(51)Int.Cl.　F I
B65D 51/16 (2006.01)　B65D 51/16 100

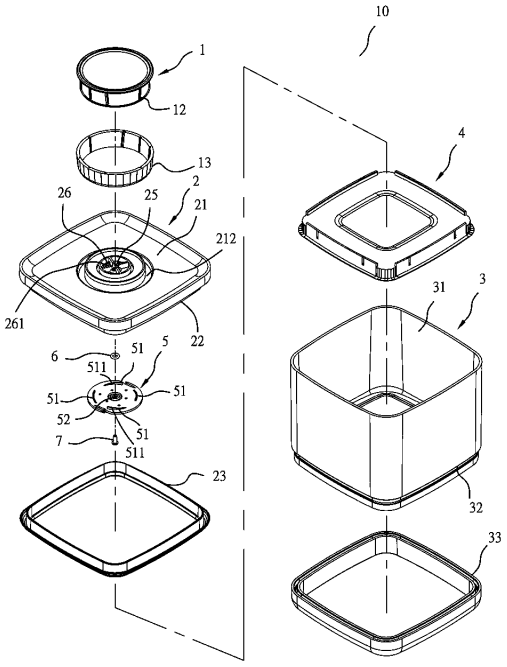
評価書の請求 未請求　請求項の数 6　OL　(全 13 頁)

(21)出願番号　実願2016-5185(U2016-5185)
(22)出願日　平成28年10月27日(2016.10.27)
(31)優先権主張番号　105210104
(32)優先日　平成28年7月5日(2016.7.5)
(33)優先権主張国　台湾(TW)

(73)実用新案権者　516060484
▲きん▼宏益科技有限公司
台湾　台北市承徳路１段８號１２樓
(74)代理人　100107962
弁理士　入交　孝雄
(72)考案者　侯　毅宏
台湾　台北市承徳路１段８號１２樓

(54)【考案の名称】密封保存容器

(57)【要約】
【課題】密封操作が容易な複数の密封保存容器の提供。
【解決手段】摘み１、上蓋２、容器３、案内台５、密封リング６から構成され、
該摘み１は、摘み下方に延伸した軸柱を上蓋２を挿通して案内台５に回転可能に固定され、該案内台５に傾斜した案内面を設けて摘みの回転に従って、摘みを該案内面に沿って上蓋に相対して上昇もしくは下降させ、密封リング６と記上蓋の挿通孔などと間隙を閉塞、解放することにより、密封状態を解除可能とする。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
摘み、上蓋、容器、案内台、密封リングから構成された密封保存容器において、
上記上蓋の上方に設置され、底部に設けた軸柱を下向きに上蓋を挿通して回転可能に連接すると共に固定部品で案内台と固定接合し、さらに該軸柱の下方には密封リングを嵌合する位置限定溝を設け、また、環形外周壁を設けて滑止めパッドを被せた摘みと、
パネル及びパネル外周縁に外周壁を備え、該外周壁は密封パッドを接合して固定して容器の上方を蓋し，また、上記摘みの軸柱を下向きに挿通する貫通孔を備えると共に上記密封リングが摘みの上昇位置において該貫通孔を密封閉塞するようにし、
パネル上方には少なくとも一つの上昇案内ブロックを設けて，該上昇案内ブロックは一端から他端に向かって高さが徐々に下がる傾斜した案内面を備えて、該摘みが第一方向に回転した時、摘みが該案内面に沿って上蓋に相対して上昇移動するようにした上蓋と、
上方に開口を備えて収容空間を形成する容器と、
固定接合した摘みに従い回転し、上部には少なくとも一つの案内ブロックを設置し，一端から別一端に向かって高さが徐々に下がって傾斜した案内面を備え、該摘みが第二方向へ回転した時、摘みを該案内面に沿って上蓋に相対して下降移動させる案内台と、
摘みの軸柱の上記位置限定溝に嵌合して固定し、該摘みが上蓋に相対して上昇移動すると，上蓋の貫通孔の内周壁を押圧して密封効果を達成し，該摘みが上蓋に相対して下降移動すると、上蓋の貫通孔の内周壁との間に隙間を形成する密封リング、
を備えることを特徴とする密封保存容器。
【請求項２】
前記容器の底部は、更に収容凹部を備えた底フレームが下向きに延長形成され，該底フレームには滑止めパッドを接合して設置し，該滑止めパッドの底部は同様の前述部品で構成された他の密封保存容器の上蓋の凹状のパネル上方に対応し、且つ該底フレームには収容凹部を設けて、該別の密封保存容器の摘みを収容しても干渉することがなく、各密封保存容器を相互に重畳可能としたことを特徴とする請求項１記載の密封保存容器。
【請求項３】
摘み、上蓋、容器、案内台、密封リングから構成する密封保存容器において、
上記上蓋の上方に設置され、底部に設けた軸柱を下向きに上蓋を挿通して回転可能に連接すると共に固定部品で案内台と固定接合し、更に環形外周壁を備えて、該環形外周壁に密封滑止めパッドを設けた摘みと、
パネル及びパネル外周縁に外周壁を備え、該外周壁は密封パッドを接合して固定して容器の上方を蓋し、また、上記摘みの軸柱を下向きに挿通する貫通孔を備えると共に
該パネル上面には少なくとも一つの上昇案内ブロックを設けて、該上昇案内ブロックは一端からた端に向かって高さが徐々に下がる傾斜した案内面を備え、前記摘みが第一方向に回転した時、摘みが該傾斜面に沿って上蓋に相対して上昇移動するようにし、また該パネルには還形凹溝を設けて、該還形凹溝には前記摘みの環形外周壁及び該環形外周壁に接合した密封滑止めパッドを収容する上蓋と、
上方に開口を備えて収容空間を形成する容器と
結合孔を穿設して固定部品で上記摘みと固定接合して摘みに従い回転するようにし、上部には少なくとも一つの案内ブロックを設けて，一端から他端に向かって高さが徐々に下がる傾斜した案内面を形成し、該摘みが第二方向へ回転した時、摘みを該傾斜面に沿って上蓋に相対して下降移動させる案内台と、
上記上蓋の還形凹溝内に接合固定し、上記摘みが上蓋に相対して上昇移動すると、摘みの環形外周壁の底端によって押圧させて密封効果を達成し、また該摘みが上蓋に相対して下降移動すると、摘みの環形外周壁の底端との間に隙間を形成する密封リング、
を備えることを特徴とする密封保存容器。
【請求項４】
前記容器の底部は、更に収容凹部を備えた底フレームが下向きに延長形成され，該底フレームは滑止めパッドを設置し，該容器の底フレームに接合した滑止めパッドの底部は、

前述部品で構成された他の容器の上蓋の凹状のパネル上方に対応し、且つ該底フレームには収容凹部を設けて、該他の密封保存容器の摘みを収容しても干渉することがなく、各密封保存容器は相互に重畳可能としたことを特徴とする請求項３記載の密封保存容器。

【請求項５】

摘み、上蓋、容器、案内台、密封リングから構成された密封保存容器において、

上記上蓋の上方に設置され、底部に設けた軸柱を下向きに上蓋を挿通して回転可能に連接すると共に固定部品で案内台と固定接合し、さらに該軸柱の下方には密封リングを嵌合する位置限定溝を設け、また、環形外周壁を設けて滑止めパッドを被せた摘みと、

パネル及びパネル外周縁に外周壁を備え、該外周壁は密封パッドを接合して固定して容器の上方を蓋し，また、上記摘みの軸柱を下向きに挿通する貫通孔を備えると共に上記密封リングが摘みの上昇位置において該貫通孔を密封閉塞するようにし、

該パネル底部には、少なくとも一つの昇降案内溝を設けて、該昇降案内溝は、一端から他端に向かって高さが徐々に下がる傾斜案内面を形成し、上記摘みが第一方向、もしくは第二方向へ回転した時、摘みが上蓋に相対して上昇移動もしくは下降移動するようにした上蓋と、

上方に開口を備えて収容空間を形成する容器と

結合孔を穿設して固定部品で上記摘みと固定接合し、環形周壁の上方には少なくとも一つの昇降案内ブロックを設けて上記上蓋の相対する昇降案内溝に嵌合し、固定接合した摘みと共に回転するのに従い、該摘みが第一方向、もしくは第二方向へ回転する時、該昇降案内ブロックを上蓋の昇降案内溝に沿って上昇移動もしくは下降移動させる案内台と、

上記摘みの軸柱の上記位置限定溝に嵌合して固定し、該摘みが上蓋に相対して上昇移動すると，上蓋の貫通孔の内周壁を押圧して密封効果を達成し，該摘みが上蓋に相対して下降移動すると、上蓋の貫通孔の内周壁と共に隙間を形成する密封リング、

を備えることを特徴とする密封保存容器。

【請求項６】

前記容器の底部は、更に収容凹部を備えた底フレームが下向きに延長形成され，該底フレームには滑止めパッドを接合して設置し，該滑止めパッドの底部は同様の前述部品で構成された他の密封保存容器の上蓋の凹状のパネル上方に対応し、且つ該底フレームには収容凹部を設けて、該別の密封保存容器の摘みを収容しても干渉することがなく、各密封保存容器を相互に重畳可能としたことを特徴とする請求項５記載の密封保存容器。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本考案は、密封保存容器に関するもので、摘みを回転方式にすることにより、摘みが上蓋に相対して上昇もしくは下降して密封効果を達成するか、もしくは隙間を形成して空気を開通して密封を解く関連領域に係る。

【背景技術】

【０００２】

公知の密封容器は、通常、引上方式か、もしくは掛合方式の制御装置を設置することにより、使用者が引上動作もしくは掛合操作動作を行うことに拠って、密封容器を密封とするか否かを選択する。しかしながら、前述の引上もしくは掛合方式の控制装置は、一定期間使用すると、摩耗して壊れ、密封効果に影響する。更に、他の公知技術として、押圧方式の制御装置を設置し、使用者が押圧動作を行うことに拠って、密封容器が密封されるか否かが選択されるが、この種の方式は、使用する部品のバネが弾性疲労することが問題で、短期間で気密効果が落ちやすいという問題がある。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００３】

【特許文献１】特開２００２－１６６９６４号公報

【特許文献２】特公表２００９－５２３６９１号公報
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００４】
解決しようとする問題点は、公知の密封容器は、摩耗したり、部品のバネ疲労が起こることで、密封効果が落ちやすい点である。
【０００５】
本考案者は前述の欠点を鑑み、弛まぬ研究と改良によって、遂に一種の密封保存容器を考案した。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
本考案は、摘み、上蓋、容器、案内台、密封リング等を含む部品から構成される。該摘みは、回転方式で摘みを上蓋に相対して上昇もしくは下降する。更に密封リングによって密封効果を達成するか、もしくは隙間を形成して開通し、空気を導入して上蓋を容易に開ける目的を達成する。更に密封リングが摩耗率を下げて耐久使用率を上げ、使用寿命を延ばす。更に該容器の下方には滑止めパッドを設置することを最も主要な特徴とする。
【考案の効果】
【０００７】
本考案の密封保存容器は、摩耗することなく、バネを使用しないので、弾性疲労が原因の密封効果低下を防止し、相対して密封リングの摩耗率を下げて耐久率を上げ、使用寿命を延ばし、また容器下方には更に滑止めパッドを設置することで、滑り止め機能を備え、また複数の密封保存容器は相互間で重畳でき、保存、包装、運送作業に便利という利点がある。
【図面の簡単な説明】
【０００８】
【図１】本考案の実施例の立体分解図である。
【図２】本考案の実施例における上蓋の立体拡大図である。
【図３】本考案の実施例における案内台の立体拡大図である。
【図４】本考案の実施例における別角度立体分解図である。
【図５】本考案の実施例における摘みの別角度立体拡大図である。
【図６】本考案の実施例における上蓋の別角度立体拡大図である。
【図７】本考案の実施例における部分部品組立状態の立体分解図である。
【図８】本考案の実施例における容器の蓋未合の立体分解指示図である。
【図９】本考案の実施例の立体図である。
【図１０】本考案の実施例における密封状態の部分組立断面拡大指示図である。
【図１１】本考案の実施例における空気開通状態の部分断面拡大指示図である。
【図１２】本考案の実施例における二個の密封保存容器の重畳状態立体指示図である。
【図１３】本考案の実施例における二個の密封保存容器の重畳状態組立断面指示図である。
【図１４】本考案の第二実施例の立体分解図である。
【図１５】本考案の第二実施例における密封状態の部分組立断面拡大指示図である。
【図１６】本考案の第二実施例における空気開通状態の部分断面拡大指示図である。
【図１７】本考案の第三実施例の立体分解図である。
【図１８】本考案の第三実施例における上蓋の立体拡大図である。
【図１９】本考案の第三実施例における案内台の立体拡大図である。
【図２０】本考案の第三実施例における密封状態の部分組立断面拡大指示図である。
【図２１】本考案の第三実施例における空気開通状態の部分断面拡大指示図である。
【図２２】本考案の第三実施例における空気開通状態の別角度部分断面拡大指示図である。
【考案を実施するための形態】

【０００９】
摘みは、回転方式で摘みが上蓋に相対して上昇もしくは下降し、更に密封リングによって密封効果を達成するか、もしくは隙間を形成して開通し、空気を導いて上蓋を開ける密封保存容器を提供することを本考案の主な目的とする。
【００１０】
密封リングの摩耗率を下げて耐久率を上げ、相対して使用寿命を延ばす密封保存容器を提供することを本考案の次の目的とする。
【００１１】
容器下方に更に滑止めパッドを設置して滑り止め機能を備え、更に複数の密封保存容器を相互間で重畳でき、保存、包装、運送作業に便利にする密封保存容器を提供することを本考案の更に次の目的とする。
【実施例１】
【００１２】
図１～図１３に示すとおり、本考案の密封保存容器１０は以下の構成からなる。
【００１３】
摘み１は、上蓋２の上方に可動連接し、該摘み１の底部には軸柱１１(図４～図５、図１０～図１１参照)を備え、該軸柱１１は下向きに上蓋２に差し込み、次に固定部品７(図１、図４、図１０～図１１参照)で案内台５と固定接合する。該軸柱１１の下方は、位置限定溝１１１(図６、図１０～図１１参照)を備え、該摘み１は環形外周壁１２を備え、該摘み１の環形外周壁１２には更に滑止めパッド１３を設置する。
【００１４】
上蓋２は、パネル２１及びパネル２１周縁に外周壁２２を備える。該外周壁２２には密封パッド２３を固定して接合し、容器３を蓋する。該上蓋２は貫通孔２５(図１～図２、図４、図６、図１０～図１１参照)を備えて前記摘み１の軸柱１１を挿通して可動連接し、該上蓋２のパネル２１上方には少なくとも一つの上昇案内ブロック２６(図１、図３、図１０～図１１参照)を設置し、該上昇案内ブロック２６は一端から他端に向かって高さが徐々に下がる案内面２６１(図３参照)を備え、該摘み１が第一方向、例として時計回りに回転する時、摘み１を上蓋２に相対して上昇移動動させる。
【００１５】
容器３は、上方に開口を備えて収容空間３１を形成し、物品もしくは食品を収容するのに用いる。
【００１６】
装飾蓋４は、上蓋２の底部に固定して設置する。
【００１７】
前記案内台５は、結合孔５２を設置して前記固定部品７で該摘み１を固定接合し，該案内台５をその固定接合した摘み１と共に回転させる。該案内台５の上方には少なくとも一つの案内ブロック５１を設置し(図１、図３、図１１参照)、該案内ブロック５１は一端から他端に向かって高さが徐々に下がる案内面５１１を備え(図３、図１１参照)、該摘み１が第二方向、例として逆時計回りに向けて回転する時、摘み１を上蓋２に相対して下降移動させる。
【００１８】
密封リング６は、摘み１の軸柱１１の位置限定溝１１１に嵌合固定し、該摘み１が上蓋２に相対して上昇移動動すると、該密封リング６が上蓋２の貫通孔２５の内周壁２５１を押さえて(図１０参照)、密封効果を達成する。反対に該摘み１が上蓋２に相対して下降移動すると，該密封リング６と上蓋２の貫通孔２５の内周壁２５１は隙間２７を形成する(図１１参照)。
【００１９】
前述の部品構成により、摘み１が第一方向、例として時計回りの方向に回転すると、上蓋２のパネル２１に設置した上昇案内ブロック２６の案内面２６１に沿って摘み１が上蓋２に相対して上昇移動され(図１０参照)、相対して摘み１の軸柱１１に固定した密封リング

６が上蓋２の貫通孔２５の内周壁２５１を押圧して(図１０参照)、密封効果を達成する。また、該摘み１が第二方向例、例として逆時計回りの方向に回転した時、案内台５に設置した案内ブロック５１の案内面５１１に沿って、摘み１が上蓋２に相対して下降移動し，相対して摘み１の軸柱１１に固定した密封リング６と上蓋２の貫通孔２５の内周壁２５１に隙間２７を形成して(図１１参照)開通し、空氣が導かれて該隙間２７から容器３内に進入すると、上蓋２が簡単に開く。

【００２０】

更に、該容器３の底部は、収容凹部３２１を備える底フレーム３２が下向きに延長して形成され(図１、図４、図１３参照)，該容器３の底フレーム３２は滑止めパッド３３を接合する。

該容器３の底フレーム３２に接合した滑止めパッド３３底部は、重ねておかれる別の密封保存容器１０の上蓋２の凹んだパネル２１の上面に対応し(図１２～図１３参照)、且つ該容器３の底フレーム３２は収容凹部３２１を備えることから重ねられる他の密封保存容器１０の摘み１が相互が干渉することなく収容されるため、本考案の部品から構成された各密封保存容器１０は相互に重畳することができ(図１２～図１３参照)、保存、包装及び運送作業に便利である。

【００２１】

その他、該上蓋２のパネル２１は、更に環形凹溝２１２を設置して(図１～図２、図１０～図１１参照)摘み１の環形外周壁１２を収容する。

【実施例２】

【００２２】

図１４～図１６に示すとおり、本考案の密封保存容器１０の第二実施例は以下の構成からなる。

【００２３】

摘み１は、上蓋２の上方に可動連接し、該摘み１の底部には軸柱１１(図１４～図１５参照)を備え、該軸柱１１は下向きに上蓋２に差し込み、次に固定部品７(図１４～図１６参照)で案内台５と固定接合する。該摘み１は、環形外周壁１２を備え、該摘み１の環形外周壁１２には更に密封滑止めパッド１３’を被せて設置する。

【００２４】

上蓋２は、パネル２１及びパネル２１外縁に形成した外周壁２２を有する。該外周壁２２には密封パッド２３を固定して接合し、容器３に蓋する。該上蓋２は、貫通孔２５を備え、該摘み１の軸柱１１を挿通して回転可能に連接し、該上蓋２のパネル２１上方には少なくとも一つの上昇案内ブロック２６(図１４～図１６参照)を設置し、該上昇案内ブロック２６は一端から他端に向かって高さが徐々に下がる傾斜面を形成した案内面２６１(図３参照)を備え、該摘み１が第一方向、例として時計回りに向けて回転する時、摘み１を上蓋２に相対して上昇移動動させる。該上蓋２のパネル２１には、環形凹溝２１２を設けて、摘み１の環形外周壁１２及び該環形外周壁１２に接合する密封滑止めパッド１３’を収容する。

【００２５】

容器３は、上方に開口を備えて収容空間３１を形成し、物品もしくは食品を収容するのに用いる。

【００２６】

装飾蓋４は、上蓋２の底部に固定して設置する。

【００２７】

案内台５は、結合孔５２を設置して固定部品７で該摘み１を固定接合し，該案内台５をその固定接合した摘み１と共に回転させる。該案内台５の上側には少なくとも一つの案内ブロック５１を設置し(図１４～図１６参照)、該案内ブロック５１は一端から他端に向かって高さが徐々に下がる傾斜した案内面５１１を備え、該摘み１が第二方向、例として逆時計回りに向けて回転すると、摘み１を上蓋２に相対して下降移動する。

【００２８】

密封リング６’は、上蓋２の還形凹溝２１２内に接合固定し、該摘み１を回転させて上蓋２に相対して上昇移動動すると、該密封リング６’は摘み１の環形外周壁１２の底端１２１に押圧されて(図１５参照)、密封効果を達成する。また、該摘み１を反対方向に回転させて上蓋２に相対して下降移動すると，該密封リング６’は摘み１の環形外周壁１２の底端１２１間で隙間２８を形成する(図１６参照)。

【００２９】

前述の部品構成により、摘み１が第一方向、例として時計回りの方向に回転すると、上蓋２のパネル２１に設置した上昇案内ブロック２６の案内面２６１に沿って摘み１が上蓋２に相対して上昇移動動され(図１５参照)、上蓋２の還形凹溝２１２に接合固定した密封リング６’が摘み１の環形外周壁１２の底端１２１によって相対して押圧されて(図１５参照)、密封効果を達成する。また、該摘み１が第二方向例、例として逆時計回りの方向に回転すると，案内台５に設置した案内ブロック５１の案内面５１１に沿って摘み１が上蓋２に相対して下降移動し、密封リング６’を摘み１の環形外周壁１２の底端１２１との間に隙間２８(図１６参照)を形成して開封され、空気が導入されて該隙間２８から容器３内に進入することで上蓋２が簡単に開く。

【００３０】

更に、本第二実施例において、該容器３の底部は、収容凹部３２１を備える底フレーム３２が下向きに延長され(図１５参照～図１６)、該容器３の底フレーム３２は滑止めパッド３３を接合し、該容器３の底フレーム３２に接合した滑止めパッド３３の底部は、前述部品から構成される別の密封保存容器１０の上蓋２の凹んだパネル２１の上方に対応し、且つ該容器３の底フレーム３２は収容凹部３２１を備えることから該別の一密封保存容器１０の摘み１が中に入ることで相互が干渉することがないため，本考案第二実施例の部品構成の各密封保存容器１０は重畳することができ、保管、包装、運送作業に便利である。

【実施例３】

【００３１】

図１７～図２２に示すのは、本考案の密封保存容器１０の第三実施例であり、以下の構成からなる。

【００３２】

摘み１は、上蓋２の上方において、該摘み１の底部の軸柱１１(図２０～図２２参照)を下向きに上蓋２に挿通して回転可能に連接し、次に固定部品７(図１７、図２０～図２２参照)で案内台５と固定接合する。該軸柱１１の下方外周には、密封リングを嵌合する環状の位置限定溝１１１(図２０～図２２参照)を備え、該摘み１は環形外周壁１２を備え、該摘み１の環形外周壁１２には更に滑止めパッド１３を被せて設置する。

【００３３】

上蓋２は、パネル２１及びパネル２１に連接する外周壁２２を備える。該外周壁２２には密封パッド２３を固定して接合し、容器３に蓋する。

該上蓋２は、貫通孔２５(図１７～図１８、図２０～図２２参照)を備えて、該摘み１の軸柱１１を挿通して回転可能に連接する。

該上蓋２のパネル２１底部には、少なくとも一つの昇降案内溝２９(図１７～図１８、図２０～図２２参照)を設置し、該昇降案内溝２９は、一端から他端に向かって高さが徐々に下がる傾斜面を形成し(図１７参照)、該摘み１が第一方向、例として時計回り、もしくは第二方向、例として時計と逆回りに向けて回転する時、摘み１を上蓋２に相対して上昇移動動、もしくは下降移動させる(図２０～図２２参照)。

【００３４】

容器３は、上方に開口を備えて収容空間３１を形成し、物品もしくは食品を収容する。

【００３５】

装飾蓋４は、上蓋２の底部に固定して設置する。

【００３６】

案内台５は、結合孔５２を設けて固定部品７で該摘み１の軸柱に固定接合し、該案内台５をその固定接合した摘み１と共に回転させる。該案内台５の環形周壁５３上方には、少な

くとも一つの昇降案内ブロック５３１(図１７、図１９、図２０～図２２参照)を設置する。該昇降案内ブロック５３１は上蓋２の相対する昇降案内溝２９に嵌入し、該摘み１が第一方向、例として時計回り方向、もしくは第二方向、例として時計と逆回りの方向に回転する時、該昇降案内ブロック５３１を上蓋２の昇降案内溝２９と共に上昇移動(図２０参照)もしくは下降移動(図２１～図２２参照)する。

【００３７】

密封リング６は、摘み１の軸柱１１の位置限定溝１１１に嵌合固定し，該摘み１が上蓋２に相対して上昇移動動した後、該密封リング６が上蓋２の貫通孔２５の内周壁２５１を押圧して(図２０参照)密封効果を達成する。該摘み１が上蓋２に相対して下降移動すると、該密封リング６と上蓋２の貫通孔２５の内周壁２５１は隙間２７を形成して開封する(図２１～図２２参照)。

【００３８】

前述の部品構成により、摘み１が第一方向、例として時計回りの方向に回転する時、上蓋２のパネル２１に設置した昇降案内溝２９によって案内台５の昇降案内ブロック５３１を上昇移動させ、案内台５に接合した摘み１を上蓋２に相対して上昇移動させ(図２０参照)、相対して摘み１の軸柱１１に固定した密封リング６が上蓋２の貫通孔２５の内周壁２５１を押圧して（図２０参照)密封効果を達成する。また、該摘み１が第二方向、例として逆時計回りの方向に回転した時，上蓋２のパネル２１に設置した昇降案内溝２９によって案内台５の昇降案内ブロック５３１を下降移動させ、摘み１を上蓋２に相対して下降移動させ、相対して摘み１の軸柱１１に固定した密封リング６が上蓋２の貫通孔２５の内周壁２５１との間に隙間２７(図２１～図２２参照)を形成して開封し、空氣が導入されて該隙間２７から容器３内に進入すると、上蓋２が簡単に開く。

【００３９】

更に、第三実施例において、該容器３の底部は、収容凹部３２１を備える底フレーム３２が下向きに延長形成され(図２０～図２２参照)、該容器３の底フレーム３２は滑止めパッド３３を接合し、該容器３の底フレーム３２に接合した滑止めパッド３３の底部は、前述部品から構成される別の密封保存容器１０の上蓋２の凹んだパネル２１の上方に対応し、且つ該容器３の底フレーム３２は収容凹部３２１を備えることから該別の一密封保存容器１０の摘み１が中に入ることで相互が干渉することがないため、本考案第三実施例の部品構成の各密封保存容器１０は相互に重畳でき、保管、包装、運送作業に便利である。

【００４０】

上述から、本考案は、以下の効果を備える。

【００４１】

摘み１は、回転操作することにより、摘み１を上蓋２に相対して上昇もしくは下降し、更に密封リング６によって密封効果を達成するか、もしくは隙間２７、２８を形成して開封し、空気を導入して上蓋２を開ける。

【００４２】

バネを使用しないので、弾性疲労が原因の密封効果低下を防止し、相対して密封リング６の摩耗率を下げて耐久率を上げ、使用寿命を延ばす。

【００４３】

容器３下方には更に滑止めパッド３３を設置することで、滑り止め機能を備え、また複数の密封保存容器１０を重畳することができ(図１２～図１３参照)、保存、包装、運送作業に便利である。

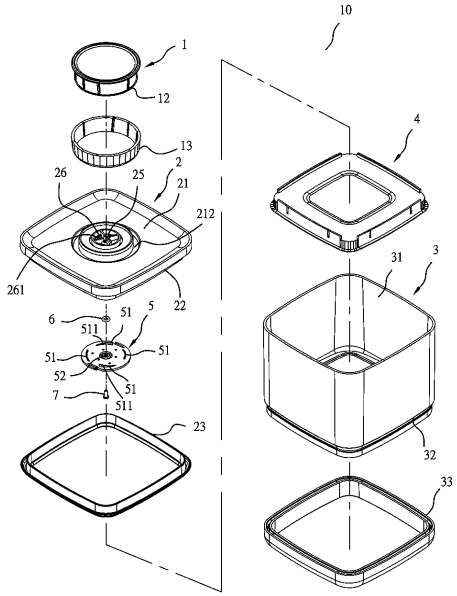
【符号の説明】

【００４４】

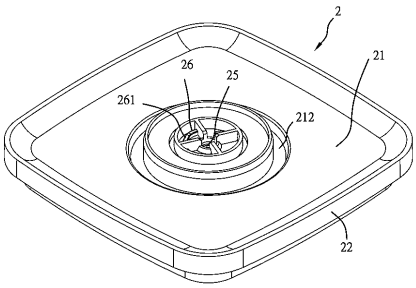
１　摘み
１０　密封保存容器
１１　軸柱
１１１　位置限定溝
１２　環形外周壁

１２１　底端
１３　滑止めパッド
１３’　密封滑止めパッド
２　上蓋
２１　パネル
２１２　還形凹溝
２２　外周壁
２３　密封パッド
２５　貫通孔
２５１　内周壁
２６　上昇案内ブロック
２６１　案内面
２７　隙間
２８　隙間
２９　昇降案内溝
３　容器
３１　収容空間
３２　底フレーム
３２１　収容凹部
３３　滑止めパッド
４　装飾蓋
５　案内台
５１　案内ブロック
５１１　案内面
５２　結合孔
５３　環形周壁
５３１　昇降案内ブロック
６　密封リング
６’　密封リング
７　固定部品

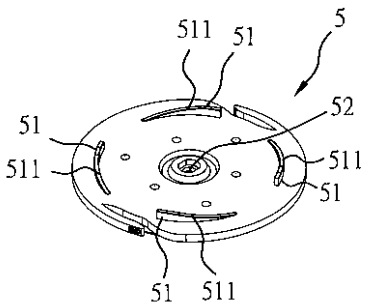
【図１】



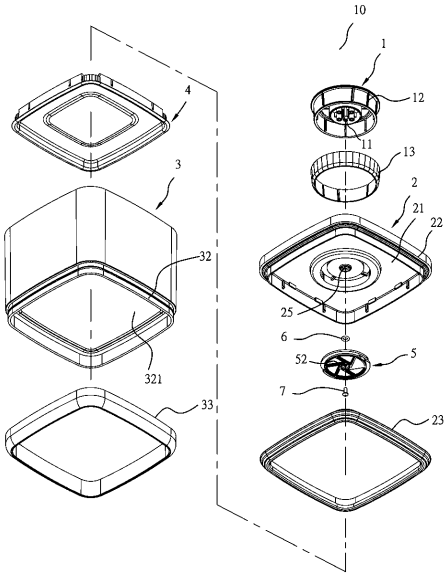
【図２】



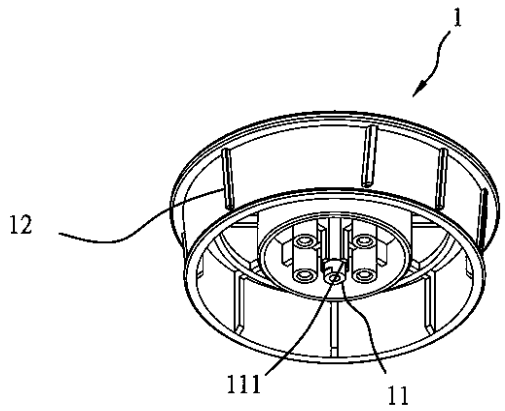
【図３】



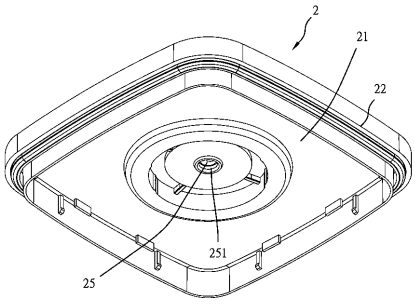
【図４】



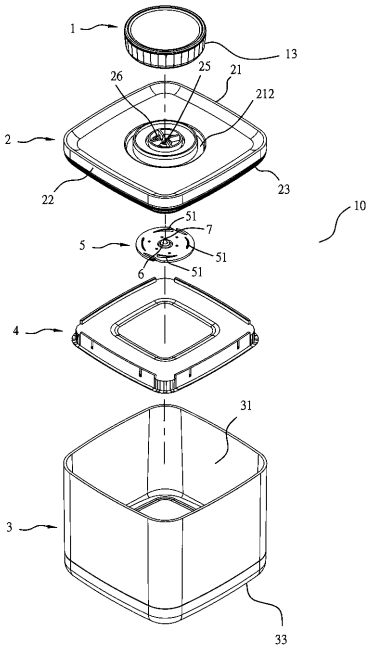
【図５】



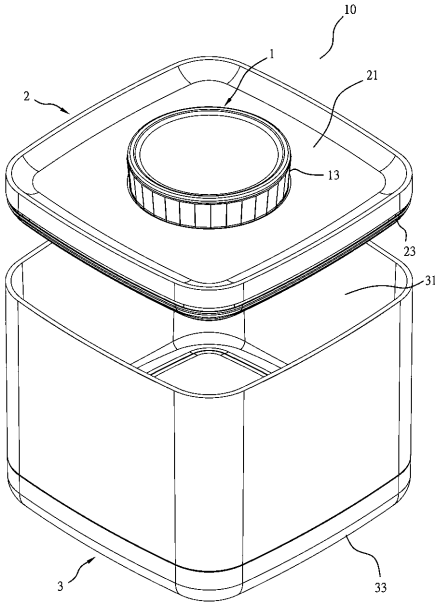
【図６】



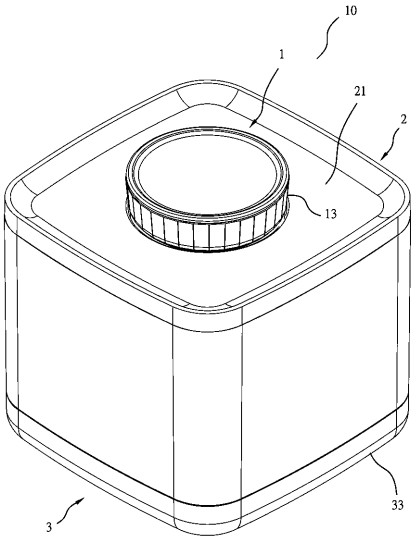
【図７】



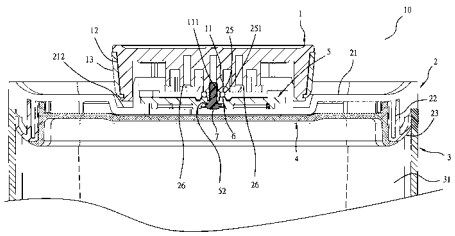
【図８】



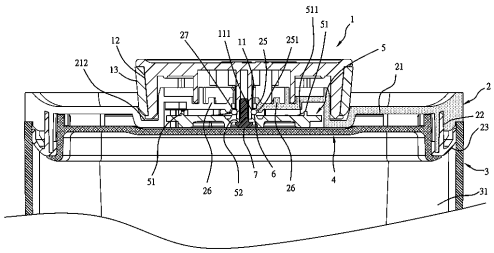
【図９】



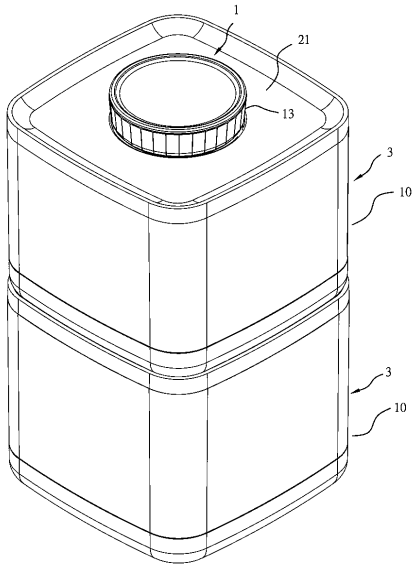
【図１０】



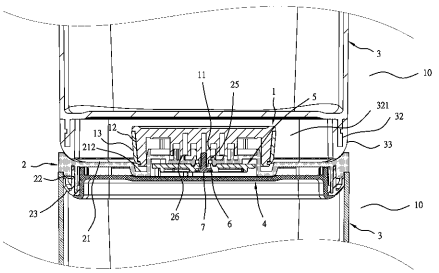
【図１１】



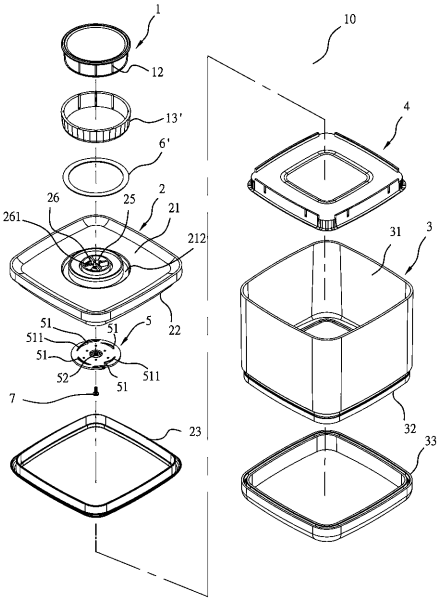
【図１２】



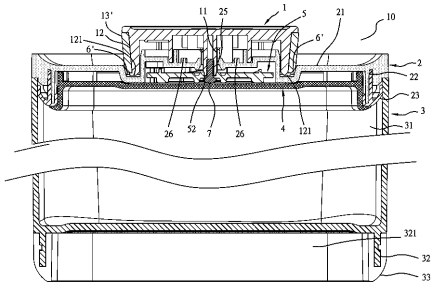
【図１３】



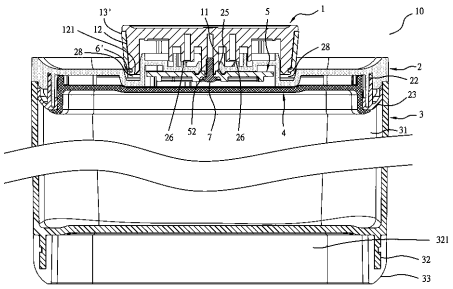
【図１４】



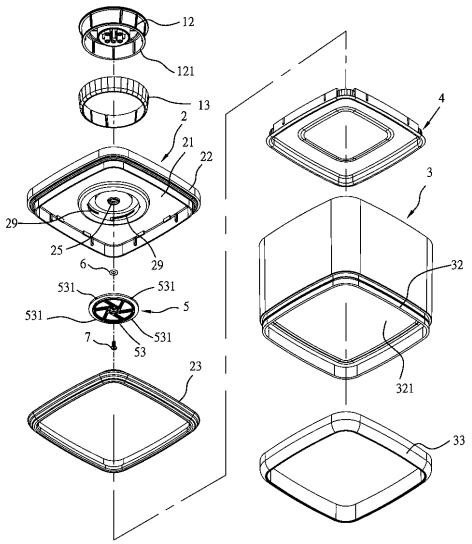
【図１５】



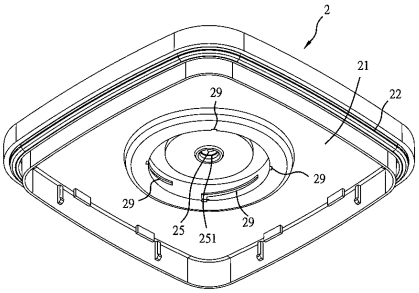
【図１６】



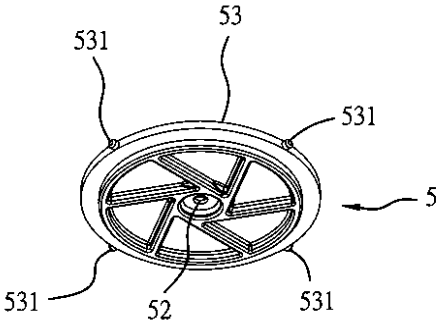
【図１７】



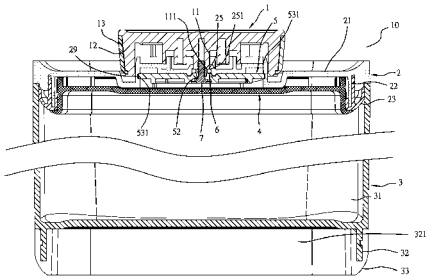
【図１８】



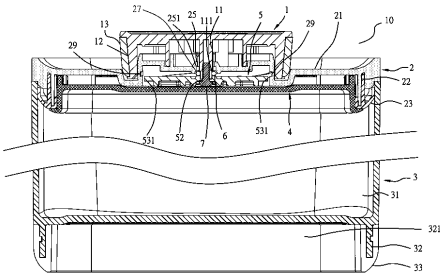
【図１９】



【図２０】



【図２１】



【図２２】

